

＜安倍晋三元総理＞

インタビュー：金野策一、渡邊健、野口昌克

金野)現在の政治におけるソーシャルメディアの活用状況についてコメントを頂けますでしょうか。

安倍)「中東の春」はソーシャルメディアが大きな原動力になりましたね。民主主義が社会や政治を変えていくということだと思います。

これまで情報の発信源、収集先は一部のマスメディアに限られていたのが、ソーシャルメディアによって個人でも独自に発信、収集ができるようになったことは非常に大きい変化だと思います。

政治家においても、例えばこれまで1万人を集めることは大変なことでありましたが、ネット上においては1万人、それ以上の多くの方に、自分の主張をフィルターを通さずに、直接発信できることは多いに魅力だと思います。

金野)安倍先生は非常に上手くソーシャルメディアを使われていると思っているのですが、使いわけはどのようにされているのでしょうか。

安倍)もともとはブログやメルマガ、特に携帯向けのジャストメールを活用していたんですね。ただし、これらのツールでは登録者を増やすことがかなり大変でした。それに対して、フェイスブックやツイッターはより多くの対象に対して発信でき、拡散も可能です。ただし、ツイッターは匿名。フェイスブックは実名であり、感性に訴えることもし易いと思います。各々のメリット、デメリットを踏まえれば、政治においてはフェイスブックのほうが活用を中心となってくるのではないのでしょうか。

金野)ネット上の議論と一般世間での議論で争点の違いはあるのでしょうか。

安倍)サイバーネット上では、ある種の閉鎖性があるって、争点が偏る可能性はありますね。テーマとしては割と普遍的な、教育、安全保障、外交といった論点はネットのほうで活発ではないでしょうか。

金野)ネット献金についてはどのようにお考えですか。

安倍)そもそも日本には個人献金の文化がまだない状況ですから、ネット献金はまだまだ小さい存在ですね。

ただし、尖閣の問題で国民の皆様からあれだけの寄附が東京都に集まったことは、非常に驚きでした。大きな目的に対して資金が集まるという流れが出てきたということを示していると思います。

金野)本日はお忙しい中、ありがとうございました。